

アダプト通信

VOL. 5

NPO 法人ひろしまアダプトは、広島県内の道路・河川等あらゆる土木公共施設を対象としたアダプト活動を支援し、行政機関との連携を図りながら、行政と住民・民間団体の協働による公共施設の適切な保全及び環境保全並びに公共施設の愛護機運の促進等を図るとともに、その活動を通して地域の活性化に寄与することを目的として、提案や活動を行っています。

2010年12月12日発行 第5号
発行／NPO 法人ひろしまアダプト
広島市中区紙屋町1丁目1-17 広島MIDビル
TEL (082)240-0768 FAX (082)248-7565

広島県アダプト制度

マスコットキャラクター

が決定しました

広島県アダプト制度を広く周知するため、広島県では今年6月～7月にかけて「広島県アダプト制度マスコットキャラクター」を募集しました。小学生や高校生、専門学校生やプロのデザイナーなど県内外から139名の応募があり、どれも力作ぞろい。広島県担当者や当NPO法人の理事が審査を行った結果、大田市在住のイラストレーター塩崎まさよさんがデザインした「アダピィ」に決定しました。

宮島に生息する鹿をモチーフにしたアダピィは、頭に県木のモミジ、胸には県章をつけています。両手に持った竹ぼうきとちりとりで、地域の美化活動に取り組む姿勢を表現。「アダピィ」という名前で、アダプトという名称も一緒にアピールしていきます。



アダピィ

アダピィは今後、ポスターやパンフレットに登場。アダプト制度普及のために活躍します。

NPO法人

ひろしまアダプト

総会のご報告

平成22年5月30日、広島工業大学にてひろしまアダプト総会が開催されました。出席者は丸山理事長、清田副理事長など8人。議事内容は以下の通りです。

■平成21年度の事業報告

平成21年度においては、理事会を5回開催。奨励金事業の実施状況や賛助会員の入会状況について、コカ・コーラウエスト(株)による支援自販機の設置提案についてなどを話し合いました。広島県委託事業である奨励金交付事業では、清掃や緑化活動を対象として交付する基本型、草刈り活動を対象として基本型に上乗せ交付する付加型があります。

平成21年度は、基本型67団体に62万円、付加型135団体に604万5,000円の奨励金を交付しました。また、平成22年1月30日に東広島にてアダプト・フォーラムを実施。広報活動としてホームページ運営とアダプト通信を発行しています。

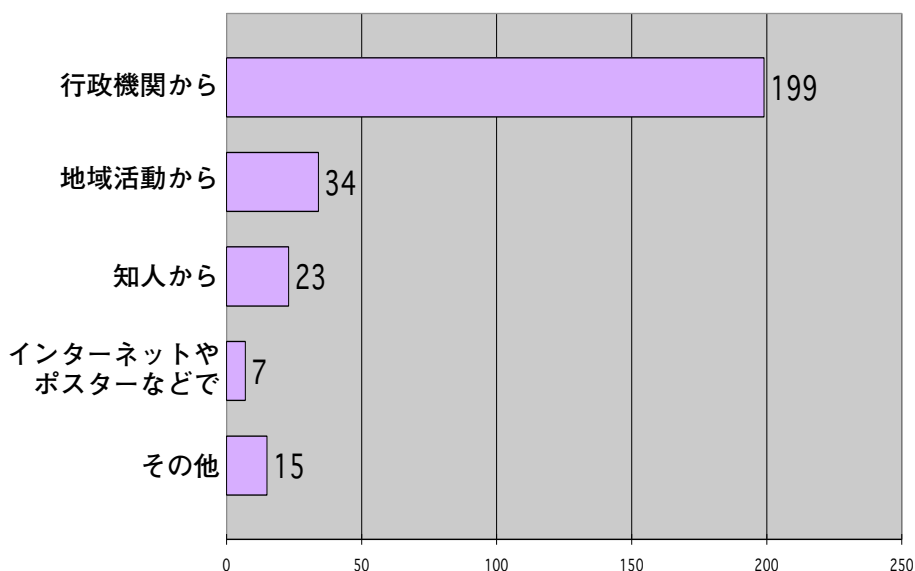
■役員選任

平成22年度第1回理事会において、正本良忠理事(広島県緑化センター管理責任者)の退任が承認されました。このため総会で役員選任が行われ、正本大氏(みずえ緑地株式会社代表取締役)が新理事に就任。任期は平成23年5月23日までです。

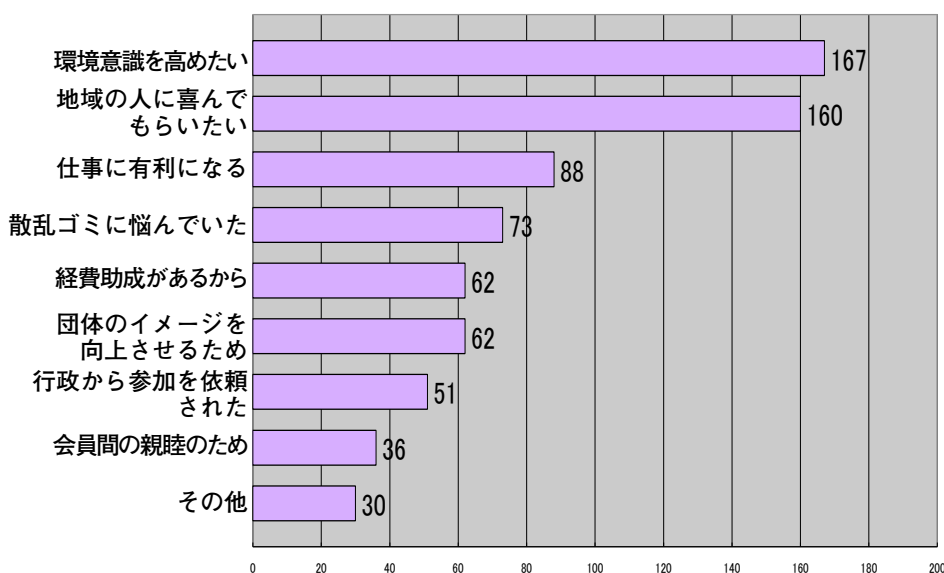
広島県アダプト制度についての実態調査を行いました

実施期間…2010年7月26日(月)～8月10日(火)
配布数…427 有効回答数…280

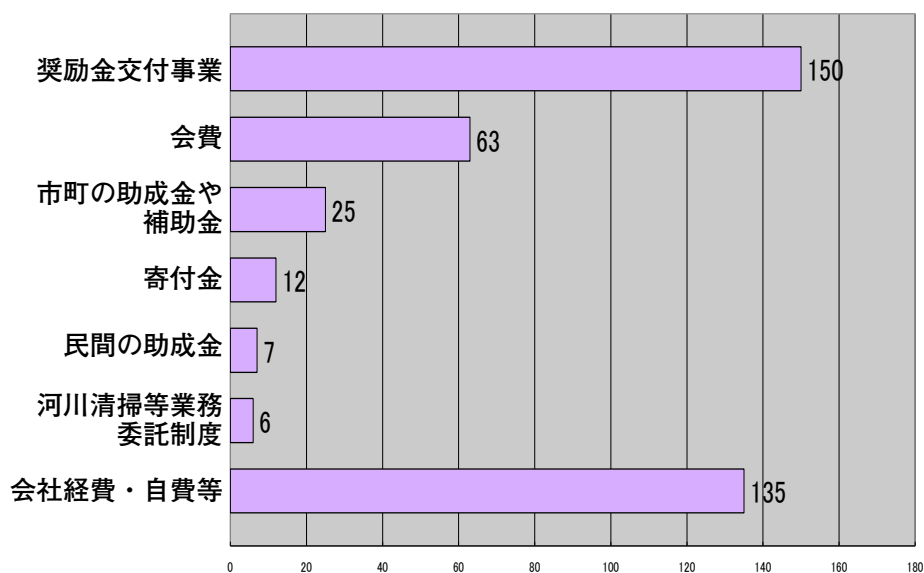
アダプト制度をどこで知られましたか



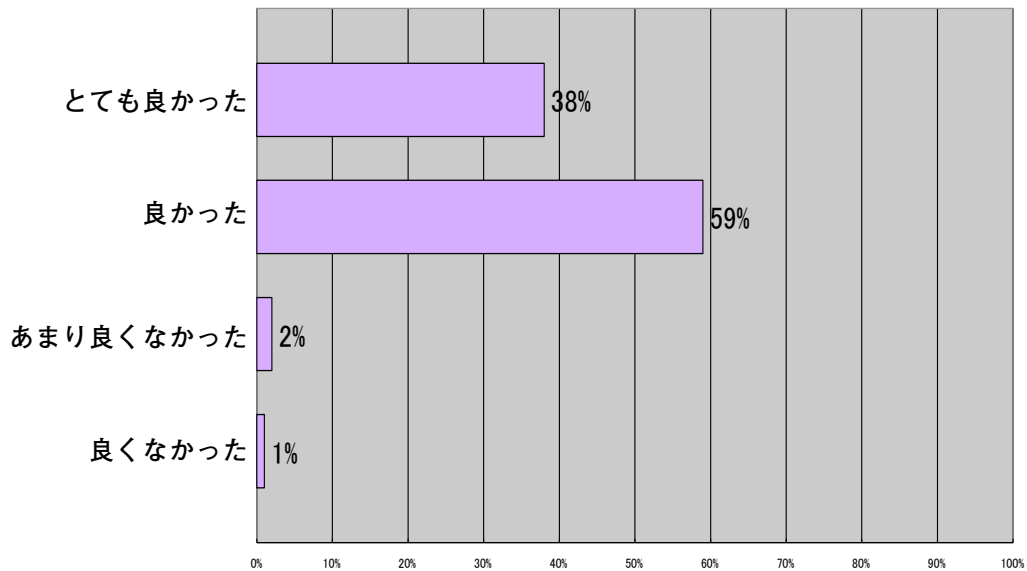
アダプト活動に参加したきっかけは何ですか(3つまで回答)



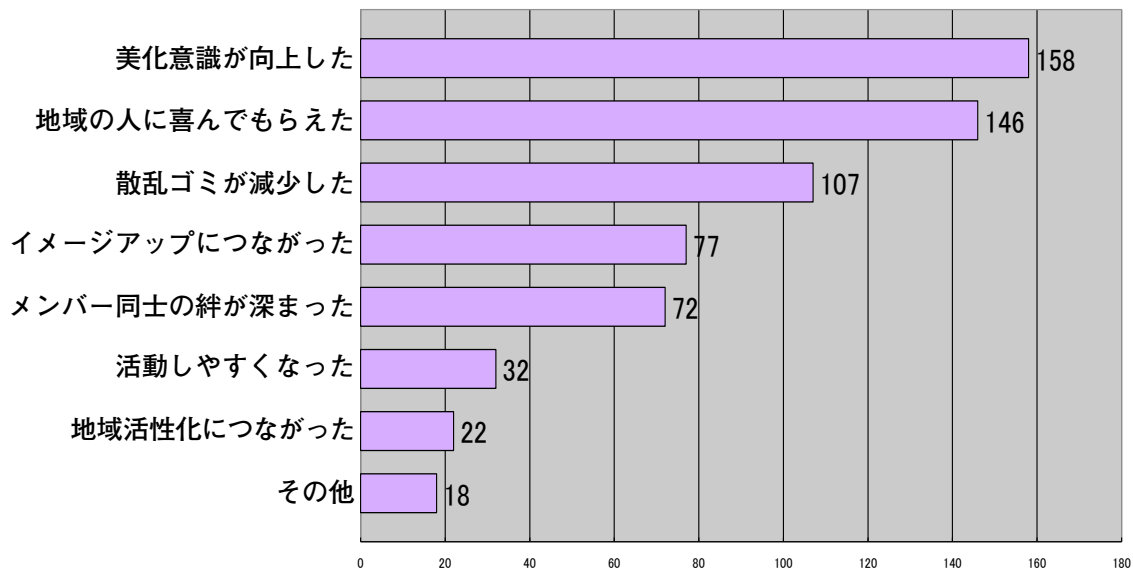
アダプト活動にかかる費用をどのようにしてまかなっていますか



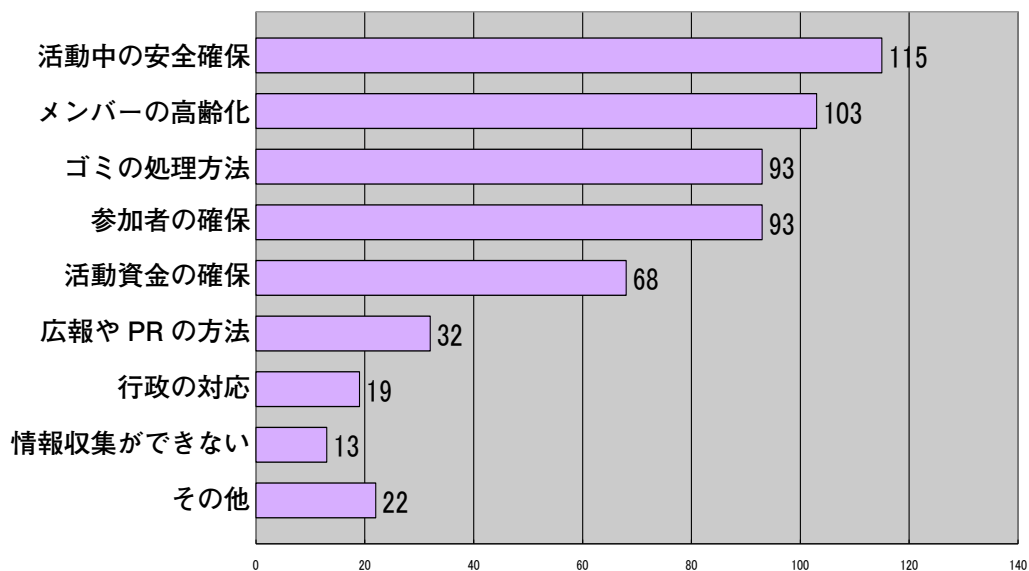
アダプト活動に参加して良かったと思いますか



アダプト活動に参加して良かったと思っのはどんなことですか



活動を行う上で課題となっているのはどんなことですか



いろいろな意見をいただきました



■活動の際に工夫している人

- 農作業の害虫防除の時期に合わせて草刈りを行う
- 高齢化対策のため、メンバーの家族（若者）にも協力を求める
- 安全を確保するため、作業中はジャンパーやベストを着用して目立つようにする
- 川沿いに植栽をし手入れをすることが、ポイ捨てへの監視につながると思う
- 活動資金をまかなうため、回収したアルミ缶は業者に売却する
- 交通事故のないように、常に車両に注意している
- 他団体や町内会組織とタイアップすることで、活動範囲や参加者数を確保している
- 美化教育の一環として、子どもたちにも参加してもらおう
- 清掃活動に加え、水辺教室や自然観察も取り入れている
- 活動は早朝の短時間。同じ場所で複数回作業することで、環境維持を図っている
- 作業後は会費1,000円で食事会を実施。花見や暑気払いなどで親睦を深めている
- 活動中はロゴ入りのTシャツやジャンパーを着用し、会のPRに努めている

■行政に対する意見

- 県職員や行政担当者は、アダプト活動や環境美化に関心がないように見える
- 担当者が変わるたびに対応が変わるので混乱する。担当者を固定できないか？
- 自発的に活動しやすい環境づくりが必要だと感じる
- ゴミの分別についての指導をお願いしたい
- 行政が行う草刈りや清掃については、計画が策定された段階で告知してほしい
- 国・県・市町がもっと情報交換をして、有効な対策を立てる必要があると思う
- 広報誌面やホームページを通じて告知している市町もあるが、関係機関や関係部局への情報提供を行っているところは少ない
- 草の根が取れないので、遊歩道縁石の亀裂を修復してほしい
- 公園のフラワーポットを修理してほしい
- 水のない所で花栽培をしているので、早く水道をつけてほしい
- アダプト活動について知らない地域が多く、県職員の中にも知らない人がいる。さらなる周知が必要だと感じる
- 廃棄された大型ゴミの処分に協力してほしい

■奨励金についての意見

- 市町の担当者も一緒に活動すればいいと思う
- 草刈機を購入するための助成金があれば助かる
- 助成を求めたいが書類が複雑。もう少し簡略化できないか
- 協働で清掃活動をしている団体も、メンバーとして申請できるようにならないか
- 草刈りは延長ではなく面積での算定を検討してほしい
- 指定団体がどこで活動しても、傷害保険が適応されるようになれば活動の幅が広がると思う
- 奨励金交付時期を早くしてほしい

■ひろしまアダプトに対する要望

- 対応窓口がいくつもあって不便。一本化できないか？
- 行政ではなく、ひろしまアダプトにゴミの直接回収を依頼できるようにしてほしい
- 申請書に添付する写真は毎年同じなので、継続団体は報告書なしにしてほしい
- 事務作業や安全作業へのアドバイスや支援をお願いしたい
- ひろしまアダプトのPRも必要
- 会員の高齢化に伴い、次世代への継承が課題となっている。何か方法はないだろうか

アダプト交流会を開催しました

2010年11月12日～17日の4日間、広島市、三次市、福山市、安芸太田町において「アダプト交流会」を開催。多くの活動団体の方々にご出席いただき、活発な意見交換が行われました。

基調講演

「アダプトについて」

みんなで考えよう」

講師：丸山 孝志氏

■アダプト制度の現状と課題

アダプト制度はだいぶ浸透し、活動団体も増加傾向にあります。その反面でさまざまな問題が浮上っています。もう一度「アダプト活動とは何か」について、考えてみましょう。

アダプト活動の基本理念は「公共の場所の環境維持・改善は住民も協力する」ということ。しかし制度加入の動機は、立場によって



異なります。まず行政の場合で考えてみましょう。現在、広島県にはお金がありません。しかも住民のニーズは多様化し、変化の速度も早い。行政という組織は小回りが利きませんから、行政では対応しきれません。そこで「民と官が協働しましょう」ということになりました。しかし行政としては、「われわれのルールに則って活動してほしい」と思っています。それでは問題解決は不可能です。

県と市町の間にも、意見のズレが生じています。県は市町にも応分負担を求めています。本来県がすべきことを押し付けられた」と感じている市町も存在します。問題や障害を抱えたまま、事態は悪化し続けています。各主体の溝を埋め、地域の公共空間の環境を守るため、今、何が必要なのでしょう。

■原点回帰とルールの再確認

最後は広島県行政担当者の方。県の都合、県のルールのみを重視して協力を求めているのですか？「こういうルールを決めたから、協力してもらわないと困る」という態度では、真の協力は得られません。相手のいい分を聞き、受け入れることによって、密接な協力関係が発生すると思っています。

一方住民側はどうでしょう。社会参画意識の変化により、「行政には任せておけない」「自分たちの地域を守る」という気持ちは高まっています。活動の際には当然、「自分たちのルールでやりたい」と思いますし要望要求も膨らみます。ですが本当に地域環境に対して責任がもてるのかというと、「ボランティアに責任を求められても困る」と及び腰になってしまいます。

皆さん、課題は現場にあります。相手の顔ではなく、現場に存在する課題を見つめ、同じ物を見ながら話し合いましょ。当事者が共通の思いで動くことが、課題解決の第一歩となります。

西部会場（南部） 広島県立総合体育館

実施日：2010年11月12日（金）

参加数：31団体50人

■質疑応答

質問：河川沿いの遊歩道に桜を植えたい。

回答：桜などの高木は根をはり堤防を崩す怖れがある。地域住民の安全を考えた場合行政としては許可がしにくい。

しかし低木のサツキなどであれば問題ないので、そちらで検討してほしい。

質問：護岸整備や川底さらえを

されると、ホタルの幼虫が全滅する。事前に教えてもらえないだろうか。また、どうすればホタルを守る事ができるか知りたい。

回答：土木管理課や維持管理課が担当部署の。担当者と密に連絡をとり顔なじみになっていけば、事業計画が決まった段階で教えてもらえるようになる。ホタルを守るには、川底さらえの前に幼虫を保護し



て別の場所に移し、作業が終わってから元の場所に帰してやるしかない。

■寄せられた意見

- ・ 持っている課題を出し合い参考になった
- ・ 意見交換会は、マイロードとラブリバーを分けた方がいい
- ・ 危険防止や事故防止のマニュアルや、対策指導をお願いしたい
- ・ 地域住民と共に地域を守る意識を高めたい
- ・ 意見交換の時間が短かった
- ・ テーマごとに分科会を作って協議するのも良いと思う
- ・ 他の活動団体のことを知り、モチベーションが高くなった
- ・ 住民の意識改革が最重要課題であると思う
- ・ アダプト活動の社会的認知の拡大が課題だと感じた
- ・ 地域への広報活動を広めたい
- ・ 行政と住民のパートナーシップ作りが重要だと感じた

北部会場 北部建設事務所第3庁舎

実施日：2010年11月15日（月）

参加数：25団体31人

■質疑応答

質問：高齢化対策として若者を巻き込む活動事例を知りたい。

回答：保育園と連携し、保育園児とその保護者が一緒に活動するようにしている。教育の一環として、ゴミの分別指導もしている。親が活動に参加している時に、「子どもも連れて来て」とお願いするのがいい。

質問：限界集落では、若者を巻き

込もうにも若者がいないのだが。**回答**：都心部の活動団体は若者も多いので、地域を超えた「応援部隊」も必要になっていると感じる。

質問：一番問題なのは「人がいない

こと。ーターンやUターンで帰って来た人に「地域に住む責任を」と言つと、地域から逃げてしまふ。

回答：中山間地には、人手も金銭的余裕もない。都市部の人間が支援をするか、地域のセミプロ集団（集落型農業法人やNPO法人）



を作らないと、活動ができなくなっている。行政には、高齢化や限界集落といった細かい部分の情報が入ってこない。地域同士で横のつながりを持つと同時に、行政に現状を伝えるのも重要だと思う。

■寄せられた意見

- ・ 他団体の活動内容を聞いて、もっと活動内容を充実させる方法がないかとの思いを持った
- ・ 少人数のワークショップ的な話し合いの方が効果的ではないか
- ・ 高齢化で参加人数が減少しているのが心配
- ・ 高齢化対策については、横の連携をとりながら相互支援作りを考えている
- ・ 各地域でそれぞれの団体が本気で活動されていることに感動した
- ・ ボランティア活動をしやすい道路や土手作りを考えるべき
- ・ 費用や経費についてもっと知りたい

東部会場 東部建設事務所第3庁舎

実施日：2010年11月16日（火）

参加数：38団体48人



■質疑応答

質問…会員はいるが、活動に参加してくれない。何かいい方法はないか。

回答…地域に応援してもらえらる雰囲気を作り、イベントなどを開催したら参加者が増えた。ボランティアの原則は「無理をしない」「強制しない」活動内容を固定せず「来て、おしゃべりするだけでもいいよ。」というスタンスだと、参加しやすいと思う。昼食会やカラオケ大会など「楽しい事」を取り入れてみては。

質問…会の主要メンバーは皆高齢者。後継者育成の手だてが知りたい。

回答…活動のおもしろさをPRすることが原動力となる。公民館や小学校などに情報を発信し、地元住民に活動を知ってもらうことで若いメンバー

も増えてくると思う。活動もブログで紹介してもらったことがきっかけで、寄付金が届くようになった。インターネットに強い人を会員にして、Web上でPRするのも効果があると感じる。

■寄せられた意見

- ・他の団体の意見が聞けてよかった
- ・活動者本人の意見が聞け、問題点や課題について理解できた
- ・市町との連携や情報交換が必要だと感じた
- ・行政所管、市町の連携調整、各団体との協力関係が弱いと感じた
- ・アダプト制度のコンセプトがよく理解できた
- ・今後の方針や計画を決めて行く参考になった
- ・マナー教育の徹底が必要
- ・他団体の苦労話を聞き、前向きになれた

西部会場（北部）西部建設事務所安芸太田支所

実施日：2010年11月17日（水）

参加数：13団体21人



■質疑応答

質問…草刈りをしていると危険を感じることもある。安全管理のポイントが知りたい。

回答…目の横まで覆うゴーグルは、ぜひ着用してほしい。草刈り機ではじいた石などが通行人に当たる危険性もあるため、ベニア板でブロックする係とペアになると安全性が増す。草刈り機は音が大きいので、車のエンジン音が聞こえない。ブロックする係は車が来た事を知らせるために、首からホイッスルを掛けておく役割立つ。

質問…草刈り中に車の窓ガラスを割ってしまった。どのように対応すればよいか。

回答…活動中の事故については、200万円までの対物保険がついているのでそちらを利用してほしい。また年間のかけ金が安いなボランティア保険も活用し

てみては。

質問…道路沿いの共有林から枯れ葉が落ちて来て道路に積もり、危険な状態になっている。大木なので、地域住民が伐採することが難しい。行政で対応してもらえないだろうか。

回答…行政が共有林の持ち主を確定し、危険木を伐採するのは難しい。建設業者であれば大木伐採のノウハウを持っていると思うので、そういう団体と交流して手伝ってもらおうのはどうだろうか。

■寄せられた意見

- ・こうした機会がもっと増えるといいと思う
- ・協働意識の高揚を図るため、年1回程度の交流会開催を望む
- ・他の団体の意見を参考にして活動していきたいと思う
- ・認定団体が交流会に参加した場合の日当支給を検討してほしい

NPO法人ひろしまアダプト 支援自動販売機ができました

NPO法人ひろしまアダプトは、行政と活動団体の中間支援組織として3年前に発足しました。しかし資金不足のため、まだ十分な支援ができていません。安定した財源を確保するため飲料メーカーさんとタイアップした結果、アダプト活動を支援する自動販売機が誕生しました。

アダプトがマークされたピンク色のかわいい自動販売機で飲料を購入すると、その資金の一部がNPO法人ひろしまアダプトに寄付されるという仕組み。現在、安芸高田市役所、神石高原町役場、廿日市日赤の



第1号のアダプト活動支援自動販売機は安芸高田市庁舎(3F)にあります！

看護師寮への導入が決まっています。目標設置台数は200台。「アダプト支援自販機の設置を検討したい」「設置を検討してくれそうな企業や場所がある」という方がおられましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。

まち美化・アダプト・ プログラム数と活動団体数の推移

日本で初めてアダプト・プログラムが誕生したのは1998年です。毎年着実に各地に広がり、2010年12月現在、全国で推定460のアダプト・プログラムが稼働しています。



飲料メーカー6団体(コカ・コーラ協会、(社)全国清涼飲料工業会、(社)全国トマト工業会、(社)日本果汁協会、日本コーヒー飲料協会、ビール酒造組合)で構成する食環協は、新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」が、引き続き各地に広がり、地域の美化と地域づくりに貢献するよう応援しています。

アダプト・プログラム参加団体は全国合計で約21,000、参加人員は100万人を突破し(推定105万人)、まち美化活動の中心です。比重大が高まっています。

(アダプト・プログラム全国概況の詳細は、食環協ホームページ「アダプト・プログラム・シンポジウム2010(11月15日開催)報告」に掲載いたします)

